SH―9 1956年設計
鉄骨造の質的向上

ピンとラーメン架構を併用する

　SH―9は.SH―1の完成後3年を経過して設計された。
この建物の構造的な特徴は、ピンとラーメン構造を併用していることで、これ以前にはSH-3で同様の試みをしている。
　ラーメン構造を採用したのは建物全体の強さを考えると、中央辺りに横方向の力たとえば地震とか風を受ける部分を造るのが力学的にも経済的にも有利であると思われたからである。
しかし間取りから考えると必ずしもこの部分に壁がくるとは限らないし、また将来の改造などを考えると内部の空間を筋交いや壁で横断してしまうことは大変具合の悪いことになるので、内部を大きく開放しながら横力にも充分耐えうる丈夫な構造法としてこの併用構造が選ばれた。
　最初の試作から数年がたつと構造や仕上げでの技術的な実験はほぼ卒業して、そろそろ良い住宅を造るために、鉄骨造の質をどうやって向上させるかという第二の段階に入ったのがこのSH―9辺りからであった。構造にラーメンが採用されたのも、ピンでは避けることのできない筋違を取り除くことが、経済的にどれ程の負担になるかを実験的に確かめる目的を同時に含んでいたのである。
　これまで作られた鉄骨造の住宅の多くは、比較的単純な家族構成による簡単な平面の家が多かった。まれには複雑なものもあったけれど、それらは鉄骨造の特性を生かすよりむしろ殺して、在来の木造などで使われてきた工作方を利用した〝鉄骨という名の木造建築〟になった場合が大部分である。
これは技術的に未開拓であるこうした構造に対して、いきなり未経験な新しい試みをすることで失敗するかもしれない危険を犯すのをさけるためと、新工法の発見のために在来の方法をもう一度この新構造に適用してみてその長所と短所を確かめてみるためにも必要な経験であった。
SH-1から8までの変化に富んだ形や構造はこうした実験のための試作として試みられた。
このような経験から得られた鉄骨造の特徴のひとつは、柱に囲まれた内側に完全な解放された空間を得ることができる、ということであった。
この特徴を最初に意識して利用したのがSH-9である。
〝鉄骨造なら間取りは自由に決められる〟鉄骨住宅はこれを足場にして新しい発展の道が開かれた。